

宣 言

日本労働組合會議が健全なる労働組合主義の大旗を高揚し我國の組織労働者を統一して以來一年余、その地方的延長機關として結成された日本労働組合會議九州地方協議會の光輝ある第二回年度大會を迎へた。この一年は九州地方の戦線に於けるのみならず我國の労働運動が受難の一大試験期に突入した年であつた。

惟ふに滿洲問題は遂に我國の國際聯盟脱退を余儀なきとせ爲に國際平和機を著しく動搖し加ふるに世界經濟會議は暗澹たる失敗に終り世界各國は擧げてプロック經濟化へ突進して、各國資本は悉く排他的國家主義經濟の對立を尖鋭にし、この國際的潮流に乗じて雑多な反動諸勢力がシニ動し思想、政治、經濟上の極度の不安に社會情勢は混沌騒然としてゐる。

これ行き詰まれる資本主義の必々然的歸結にして、没落の重荷を

背負つた資本家階級は「國家主義」の看板に依つて反動諸勢力と通謀し必死の苦悶と足掻きを以て資本主義の最後の延命を策する即ち資本の國家主義對立の尖鋭化は内に於ては労働階級に最悪の條件を強制し失業者の氾濫する街頭へ更らに多くの労働階級を追放し労働階級を生命の窮地に追ひ詰め、只だ一途に労働階級の犠牲と迫害に依つてのみ資本主義の延命、再建を陰謀し外に於てはダンピングに依る海外新市場争奪の無軌道の競争、互恵條約の廢棄に依る關稅高壁の對立競争並に新植民地獲得の狂暴なる抗争により、國際經濟戦争が必然に世界武力戦争へ轉換する危機が切迫して労働階級の苦難は急角度に増大加重する。

重工業中心の九州地方には資本の國家主義對立激化とインフレーション政策の並行に依り所謂軍事インフレがシニ動し、限りなき労働階級の犠牲と搾取の上に資本家の利潤は著しく増大されてゐ